



# まちづくりの方向を示す 長期総合計画を策定

企画課企画調整係  
☎0824-73-1128

1市6町が合併し、広大なふるさとが誕生しました。この広大なふるさと「庄原市」の各地域が特性を活かしながら一体となり、同じ目標に向かってまちづくりを進めるため、このたび平成27(2015)年を目標年次とする長期総合計画(基本構想・基本計画)を策定しました。

- 『げんき』のイメージ
- ①市民活動や地域活力の向上
  - ②定住人口や交流人口の拡大
  - ③産業の活性化…など
- 『やまのけ』のイメージ
- ①豊かな自然環境の保全
  - ②住みなれた地域で生活できる環境
  - ③「しあわせ」を実感できるまちづくり…など

本市を包み込む豊かな自然に、地域で暮らす地域を守り、地域を育てた先人の暮らしが溶け込む中で形成された『里山』の環境や文化に改めて目を向け、継承・活用することで、『さとやま文化都市』を創造します。

## 将来像 げんきとやすらぎの さとやま文化都市

人と地域が輝く、美しい日本のふるさと

市内の各地域には、歴史・文化をはじめ、気候・風土、人々の営みや、長い年月をかけて培われた多様な個性的な資源・財産が存在しており、これらは本市発展への大きな可能性、魅力と捉えることができます。人が輝くことで地域が輝き、地域が輝くことで人が輝く。地域の個性や特性、魅力を再認識し、磨くことで、なつかしく、新しく、そして美しい『日本のふるさと』を構築します。



### 将来像を支えます。地域展望のイメージフレーズ

- ① 各地域の個性や特性が市の将来像を支えるという視点
- ② 旧市町を、本市を形成する地域として認知する視点
- ③ 地域課題を克服し、一体的な発展をめざすという視点をもって、「各地域の特長」や「こんな地域でありたい」という願いを表現していきます。

いくつものハードルを乗り越え 未来像の実現へ  
その夢は限りなく。

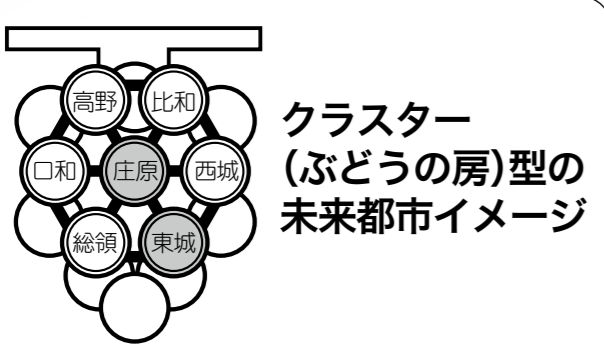
### ■クラスター (ぶどうの房)型の 未来都市づくり

地方都市の形態は、施設や交通機関、機能、人が集積する中心市街地から、地形や道路状況などに応じて規模を縮小しながら居住区域が放射状に広がっているのが一般的です。本市では、従来の一極集中型の都市形態ではなく、それぞれの地域を核として、共に発展するクラスター(ぶどうの房)型のまちづくりを進めます。

- ① 地域の個性や特性を活かし、伸ばす中で、それぞれの「ふるさと(ぶどうの粒)」を充実させます。
- ② この「ふるさと(ぶどうの粒)」を人、情報、交通、道路など、あらゆる物や手段によって有機的に結び、ふるさとのネットワークを構築します。
- ③ それぞれの特長を発揮・連携しながら、発展するクラスター(ぶどうの房)型の都市を形成します。

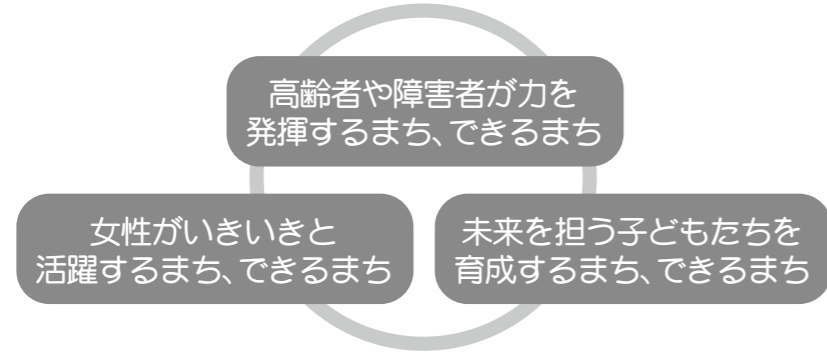
### ■大切にすべき視点

具体的な事業計画の策定や事業を実施する上での「大切にすべき視点」として、次の3項目を設定し、これらが成果のひとつとして期待できる施策、若しくは期待できる内容での実施に努め、全ての人に活力ある、やさしいまちづくりを進めます。



#### 新市建設計画における機能設定

- 庄原地域の市街地を、経済機能と学術文化・交流機能が集積した「備北地域の拠点都市にふさわしい市の中核ゾーン」として整備を推進します。
- 東城地域の市街地を、「市の中核ゾーンに準ずる区域」とし、福山・岡山圏域等の交流窓口とします。





# ■将来像の実現のために

## ★基本政策

- ①協働の力で 笑顔が輝くまち  
(自治・協働)
- ②さまざまな資源の活用で 地域が輝くまち  
(産業・交流)
- ③自然との共生で 暮らしが輝くまち  
(環境・基盤・定住)
- ④心と体の健康づくりで 命が輝くまち  
(保健・福祉・医療)
- ⑤さまざまな愛する心で 人が輝くまち  
(教育・文化)

さらに

## ★重点戦略プロジェクト

### 『みどりの環』経済戦略プロジェクト

### ☆『みどりの環』経済戦略プロジェクトとは

本市の「強み」である農村・農林業資源を最大限に活用することによって地域内の経済循環を創出し、市民所得の向上をはじめ、かつての心豊かな暮らしや美しいふるさとを取り戻すためのプロジェクト構想です。

●具体的な取り組み

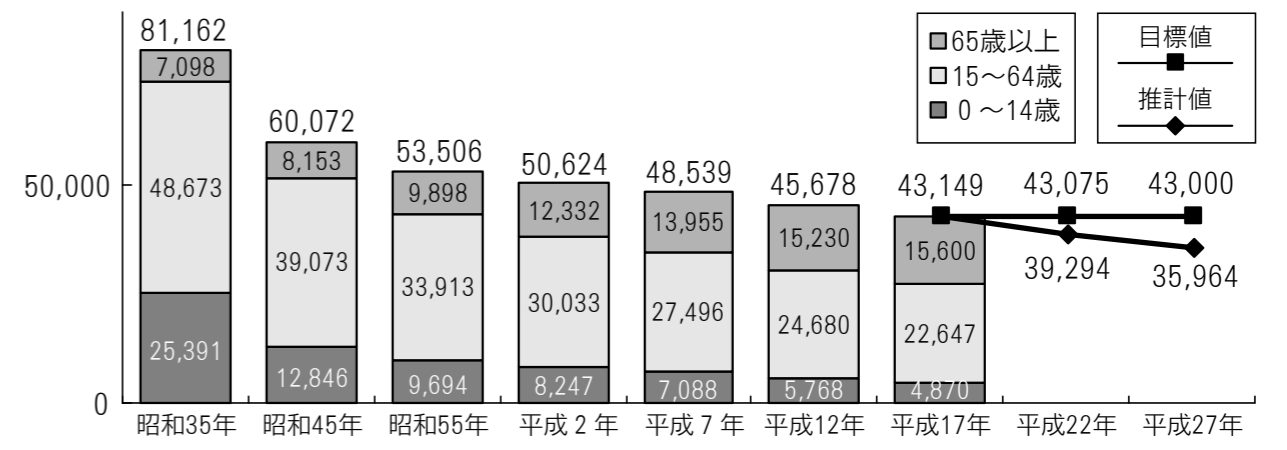
- ①農業自立振興
- ②木質バイオマス活用
- ③観光振興・定住促進

# ■目標人口 43,000人

総合計画の策定において、関心の高かった項目のひとつが目標人口の設定です。審議会委員の皆さんからは「もっと高い目標を掲げるべきだ」「推計値に準じた、目標とすべきだ」「具体的な目標人口は、設定すべきではない」などの様々な意見が出されました。これらの意見や留意すべき点も総合的に検討し、10年後の目標人口を43,000人と設定しました。

## ●留意すべき点

- ① 人口は、地方交付税などを算定する基礎数値であり、市の活力を生み出す基本となる指標である。
- ② 新市建設計画において平成27年の目標人口は、現状維持と設定している。
- ③ 住民意向アンケート調査では、複数回答ながら、52.2%の市民が「人口の減少、少子高齢化の進行」を不安・不満な点として回答している。
- ④ また、「転出している子や孫がいる」「世帯のうち、73.5%の世帯が「子どもや孫の帰郷を望む」と回答している。



# ■目標人口の達成のために

目標人口43,000人を達成するためには、おおむね次のような取り組みが求められます。  
( )内は現在の状況

- ①年少人口(0～14歳) 年間340人程度の出生数の確保(約280～300人の出生)
- ②生産年齢人口(15～64歳) 年間50人程度の社会増(約400人の減少)
- ③老年人口(65歳以上) 現在の老年人口を維持(15,600人)

※長期総合計画(基本構想・基本計画)は、市ホームページに掲載しています。  
アドレス  
<http://www.city.shobara.hiroshima.jp>

※長期総合計画(概要版)を4月に各世帯に配布する予定です。

# 長期総合計画審議会 野原会長(県立広島大学教授)に聞く

## ー総合計画をまちづくりのバイブルにー



会長 野原 建一さん

## この総合計画のポイントを教えてください。

私は大きく3つのポイントがあると思います。

1つ目は、1市6町が合併し、初めて策定した総合計画であり、1市6町の特長を活かしたまちづくりを進めるための基本的な戦略としていえる点です。1市6町の総合計画を尊重しながら、「びんきょご、やすらぎ」のさとやま文化都市」という新たな視点に立ち計画を作成しました。

2つ目は、「高齢者や障害者」「女性」「子ども」など、一般的に社会的弱者といわれる方々の力を発揮し、活躍できる環境づくりを進めるため「大切にすべき視点」を設定している点です。この「大切にすべき視点」は、行政が各施策を推進する上で重視することはもちろん、市民の皆さんが大切に、意識的に行動することで、全ての人が活力に溢れ、やさしいまちづくりが進められることを目指します。

3つ目は、様々な行政施策について満足度調査(住民意向アンケート調査)を実施しましたが、その結果を素直に掲載している点です。市民の皆さんに現状を認知していただくほか、この結果を分析・整理することで、市民の要望に沿った行政施策の推進が可能となることを考えられます。

## 審議会の中で、どのような意見がありましたか。

いつの時代・どの地域でも共通していますが、人口を増やす取り組みをしてほしい、福祉を充実してほしい、働く場を確保してほしいなどの意見が多く出されました。

特に人口減少という現実には、誰もが不安を感じ、不満を持っています。目標人口の設定では、さまざまな意見がありましたが、現状を少しでも打開し、人口減少が少しでも鈍化・上向きに転じるように願いを込めて、目標人口を43,000人に設定している

また、審議会や住民意向アンケート調査では、「合併により周辺部の活気が失われるのではないか」という不安が多く出されました。そのため、各地域の特性を活かしたまちづくりが進められるよう、「クラスター型」(びんきょごのまちづくり)という新しい考え方を示しています。それぞれの地域に核となる産業・働く場の確保が必要であると思っています。

## 各施策に目標数値を掲げていますが、目標を達成するために必要なことは。

このまちに居住する方々の満足度を上げることが、まちづくりの最終目標でもあります。住民意向アンケート調査では、全体的に市に対して満足度が低い傾向がでていますが、不満だけ言ってしまうのではなく、行政が解決してくれるという時代ではありません。この目標は、市民と行政の共同

責任です。これからは、市民と行政が一体となってまちづくりに取り組まなければ目標を達成することはできません。

そのためには、まず総合計画を理解し、市が抱える課題・まちづくりの方向を共有し、市民の皆さんが主体的に課題解決に取り組む、行政に対して提案する地域住民提案型のまちづくりを進めていかなければいけません。

また、行政に対しては、一般的に計画ができたことで安心してしまいう傾向があります。3年経つたり、目標の達成度を確認し、なぜ達成率が低いのかなどの課題を明らかにして、施策を見直すなど、常に目標を意識することが大切です。

総合計画は、まちづくりの方向を示すものであり、市民の皆さんと行政が共にまちづくりを進めるための参考書となります。自治振興区活動など、「自分たちのまちは、自分たちで創る」という意識の醸成とまちづくりのバイブルとしても活用して頂きたいと思っています。